

二〇一〇年度 一般二月入学試験 二月五日

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は30ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国

語

(60分 100点) (解答番号

1

5

49

)

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

ある日、私が祖母の好きなら焼きを持って行くと、祖母は気持ちよさそうに寝ていた。母から、昨日はお腹なかが痛いと言って涙を流していかわいそうだった、と聞いていたので、私はほっとした。⁽¹⁾

病院というところは、玄関から入った瞬間には居心地が悪くもぞもぞして早く帰りたいと思うが、しばらくいると慣れる。そして、外に出ると、すべてが強烈すぎる感じになる。交差点でいっせいに押し寄せてくる車たちや、永久に生きると思いこんでいる人々の声の大きさや、色の洪水に驚く。そして家につくころには慣れる。行ったり来たりしていると自分が不思議な地点(2)にいることに気づく。小さい頃こころ読んだオルフェの話の思い出す。彼は死の世界の住人になった妻を連れ戻すことができなかった。匂においが違う。生命の発散する濃い匂(3)いはもう、あちらの世界ではただただ押し付けがましい毒々しい尖とがった匂(4)いに変わってしまった。その反対に死の匂(4)いを人はイみ嫌う。太陽の下に出ると、弱っている人が発散する死の匂(5)いは雪みたいすぐに溶けてしまふが、そのかすかな匂(6)いは麝香じやこうみたい、遠くからでもかきわけることができる。弱った同(5)ホウ(5)を人は恐怖する。自分達たちの生活が終わってしまうように錯(6)カクする。どちらも慣れてしまえば同じことだというのに。

私が花瓶の花をい活いかえていたら、祖母は目を開けて言った。

「うちの鉢植えは元氣かしら？」

植物が好きな祖母の大切な鉢植えたちには、私が毎日本やりをしにいった。見ればなんともない植物たちだった。盆栽盆栽でもなく、貴重なものでもない。千両や、ジャスミン、そてつ、なんだかわからない豆類の木、おじぎそう、パキラ、カラ(7)ンコエ……それでも毎日本をやっているとその植物たちが祖母を狂(7)おしく求めてるのが感じられる気がした。それは妹が産ま

れるまでは両親が共働きですつとあずけられていたから、どうしようもないほどおばあちゃん子になってしまった私を感じた幻なのかもしれない。祖母の死は私にとって耐え難かった。淋さびしかった私が足をくっつけて寝た祖母。私の心に何か小さな影がさすと、本人よりもはやく気づいて私の好物のさつまいもの天ぷらを作ってくれた祖母。祖母の関心が日に日にこの世から、私から離れて行く。打ち捨てられた気持ちの植物たちと私は似ていた。⁽⁸⁾だからそう思ったのかもしれない。いつも自分のことよりもおまえたちや私を気にしてくれた人が、やっと自分のことだけ考える時が来たんだよ、と私は水やりをしながら自分を納得させようとしていた。

祖母は少しは話したがすぐ眠ってしまった。毎日寝るようになると、人は急激に影が薄くなっていく。それを感じると胸が苦しかった。人間がずつとくりかえしてきた営みに参加している自分。それを奇妙に遠くから眺める気持ち。

そんな生活に慣れたある午後、母の作った煮物を持って病室を訪ねると、祖母はめずらしく起きていた。

「ねえ、昔はシクラメンが嫌いだったのよ。」

祖母は言った。

「よくそう言っていたよねえ、でも、私もあんまり好きじゃない。なんだか湿っている感じがして。」

「あんたは植物のことがよくわかるね、おばあちゃん、思うの。あんたは植物の仕事が合ってるわよ。ホステスはおやめなさい。」

私が水商売で身(10)をたてているのを祖母はいつも反対していた。ただし私はホステスではなく、父の経営しているバーのバーテンドーだったのだが、いくら説明しても祖母にとっては同じことのようなだった。

「おばあちゃんがそう言うなら、⁽¹¹⁾考えてみる。でもどうしてシクラメンの話？」

「そのね、窓にいますでしょ、シクラメン。もう葉っぱっかりになっちゃったけどね。この間まで次々に花を咲かせていたのよ。中原さんにもらったんだけどね。^(ア)はじめは陰気な花だなあ、と思ったの。昔から苦手だったのよ、水をあげるやり方を間違える

と、いつもぐんにやりとなつてね、^(イ)太い茎が虫みたいで、なんていやらしい花だろうって。でも、ここに来て、時間ができたら少し違つて見えてきたのよ。^(ウ)あの茎は水を吸い上げるためにあるのね。水をやってから、あの花たちが一所懸命に首をあげてお日さまにあたろうとしているのを見ると、^(エ)ああ、あんたたち生きてるんだねえ、^(オ)つて退屈しないのよ。時間ができるってそういうことね。もうシクラメンとは友達になつたから、^(カ)あつちではシクラメンも育てられる自信がついたわ。」

⁽¹²⁾「そんなこと言わないで。」

そうやって今まで嫌いだつた^{すべて}全てを好きになつてしまつてから初めて行くところがあるのだろうか、と思うのは切なかつた。

祖母の意識がほとんどなくなつたのは春だつた。三日に一回くらい意識が戻つてくる時があつたが、ほとんどしゃべれなかつた。ああ、^{だれだれ}誰々ちゃん来たの、と家族の名前を言うくらいだつた。

その夕方、祖母の手を握つていた。冷たい手だつた。点滴の針であざができて青黒く変わった色をじつと見ていた。口のはしに白く乾くよだれさえも愛^{いと}しかつた。⁽¹³⁾ふいに、祖母が言つた。

「アロエが、切らないで、つて言つてるの。」

細い、途切れ途切れの声で、はじめは何のことかわからなかつた。

「アロエが、駐車場の、陰で、車に、ふまれて、痛いって。」

「にきびも傷も、なおすから、花も咲かせるから、切らないであげて。」

⁽¹⁴⁾祖母は夢うつつてまるで誰かの言葉を聞き取るかのように、少しずつ、そう言つた。私はぞうつとした。なんで私だけがこれを聞いてしまつたんだろう？　と思つた。

「それでね、おばあちゃんはあんたにはわかると思うの、そういう感性がね。植物つてそういうものなの。⁽¹⁵⁾ひとりのアロエを助けたら、これから、いろんなね、場所だね、見るどんなアロエもみんなあんたのことを好きになるのよ。植物は仲間同士でつながつているの。」

一気にそう言うと、祖母は眠った。

すぐに母と妹がカン病の交代でやってきたけれど、私はどうしてもそのことが言えなかった。のどがつまったようになって、うまく言葉が出なかった。じゃあ帰るね、と病院を出た。外は晴れて、月が出ていた。みんな優しい顔で家路を急いでいた。車のライトが夢の中の景色みたいに暗い道を照らした。私は無言で祖母の部屋に行き、遅くなってごめん、といいながら植物たちを水をやった。電気をつけたら部屋にちりばめられている祖母のささやかな人生が蛍光灯の真つ白い光に浮かび上がった。ふかふかの座ぶとん、クリスタルの小さな花瓶。筆と硯、きちんとたたまれた白いエプロン。海外旅行で買った異国⁽¹⁷⁾ジョウ緒あふるるおみやげが並んだガラスケース、眼鏡、文庫本、小さな金の時計。古い紙のような、祖母の匂い。⁽¹⁸⁾私はつらくなって電気を消した。するとガラスの向こうには植物たちが息づいていた。外の明かりにふちどられるように、生き生きと緑色だった。さつきやった水の滴がきらきら輝いていた。暗い畳にじつと座ってそれを見ていたら、⁽¹⁹⁾なんだか少しずつ楽になってきた。これはひとりの人が生きてきたあたりまえの足跡で、悲しくも苦しくもない、どちらかといえば幸せないいものなのだという気がしてきた。悲しみににごった目で見た第一印象で決めるものではないと植物が教えてくれたような気がした。ただ陽⁽¹⁶⁾を求め、水を求め、愛を求めて生きていくだけの美しい生物たちが。

私は家に帰ると、玄関から中に入らずに庭の門の鍵⁽¹⁶⁾を開けて物置きに行き、シャベルとトロッコを出してきた。そして再度玄関脇⁽¹⁷⁾に戻り、アロエをいねいに土から掘り出した。根も入れるとものすごい大きくなり、素手だったのでとげが痛かったが、なんとか運んで、庭の昼間陽当たりがいいところに植えた。春の大きな月のおぼろな明かりに照らされて、植え替えの泥にまみれたアロエは生命の力を発散していた。擬人化して「⁽²⁰⁾ありがとう」と言っていると言いたいところだったがそんなものではなくて、ただひたすらに生きてあちこちに根をはり、葉を広げていた。それにまた私ははげまされる思いがした。

(吉本ばなな「みどりのゆび」による)

問1 傍線番号①「私はほっとした」とあるが、「私」がこのように感じた理由の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤

の中から一つ選びマークしなさい。

1

- ① 祖母の体調が少しずつ快方に向かっていることが確認できたから
- ② いつまでも今日のような気持ちのよい眠りが続くだろうと思ったから
- ③ このまま苦しむことなく眠るように最期を迎えてくれるだろうと思ったから
- ④ 祖母が今日は昨日のような痛みから解放されているとわかったから
- ⑤ 昨日の激しい痛みは、一過性のもので、たいしたことはないと思ったから

問2 傍線番号②「不思議な地点」とあるが、どのような点を「不思議」だと言っているのか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

2

- ① 生命にあふれた世界・死の世界それぞれの中では当たり前前だが、別世界に入ったとたん違和感を感じさせるようになるが、どちらにも慣れるという点
- ② 別世界にたどり着いた瞬間に、すべてのものがそれまで自分がいた世界より生命感にあふれるものになるが、気のせいではないという点
- ③ 自分がなじんだ世界から別世界に入った時につかの間感じられる居心地の悪さも、すぐに慣れるという、人間の高い順応性を感じる点
- ④ 自分の世界と別世界とを、それぞれの世界の匂いの濃淡に上手に順応しながら自由に往来することができる能力を、いつものまにか身につけた点
- ⑤ 別世界にいた者が運んでくる匂いに人は恐怖感を持ち、それを神経質に排除しようとする傾向があるにもかかわらず、自分だけが平気だという点

問3 傍線番号(3)・(7)・(10)・(13)・(14)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

3
～
7

(3) 押し付けがましい

3

- ① 周囲に迷惑をかけることを顧みないような
- ② 相手が望まないものを強要するような
- ③ 恐ろしさのあまり口出しできないような
- ④ 複雑でまわりくどい感じを与えるような
- ⑤ 神聖なものを強引に冒し汚すような

(7) 狂おしく

4

- ① 意味もなく不安に陥って
- ② 心の中で静かな情熱を燃やして
- ③ 強い感情に駆り立てられて
- ④ やっかいな衝動に押し流されて
- ⑤ 妙に陽気な気分をかき立てて

(10) 身をたてている

5

- ① 世間で評価されている
- ② 生活をしている
- ③ 夢を実現している
- ④ 苦勞をしている
- ⑤ 高収入を得ている

(13)

ふいに

6

- ① 遠慮がちに
- ② うろたえながら
- ③ ちぐはぐな様子で
- ④ 弱々しいさまで
- ⑤ 出し抜けに

(14)

夢うつつで

7

- ① 夢のようなはかない思いを感じながら
- ② 夢のようにとりとめのない空想にふけっては
- ③ 夢のように短い時間の中で
- ④ 夢を見ているようなうっとりとした気持ちで
- ⑤ 夢か現実かはつきりしない状態で

問4 傍線番号(4)・(5)・(6)・(16)・(17)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

8
12

(4)

イミ
8

- ① 実用性のないキをてらった提案
- ② 宗教的な禁キにふれる
- ③ 昨今の風潮とキを一にする考え方
- ④ 成功をキして乾杯する
- ⑤ 彼はキ転のきく人だ

(6)

錯カク
10

- ① 野生動物を捕カクした
- ② 風カクのある建物
- ③ 親子のカク執
- ④ 前後不カクに陥る
- ⑤ カク世の感がある

(17)

ジヨウ
ウ緒
12

- ① ジョウ長な説明は嫌われる
- ② 水質のジョウ化に効果的だ
- ③ 仕事に私ジョウを挟む
- ④ 権利をジョウ渡する
- ⑤ 通ジョウの営業を続ける

(5)

同ホウ
9

- ① カビはホウ子で増える
- ② 周りをホウ囲された
- ③ 在留ホウ人の安否を問い合わせる
- ④ けが人を介ホウした
- ⑤ ホウ食の時代を見直す

(16)

カン病
11

- ① 心臓に疾カンがある
- ② 新入生のカン迎会を開く
- ③ 趣味は天体カン測だ
- ④ 巧みな仕掛けをカン破する
- ⑤ プールのカン視員になる

問5 傍線番号(8)「だからそう思ったのかもしれない」とあるが、「私」はどう思ったのか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 植物と同様に、自分もすっかりおばあちゃんに依存してしまった
- ② 入院していても、祖母は家にある鉢植えのことが気がかりなのだろう
- ③ 祖母の関心が、この世のあらゆるものから遠ざかりつつあるようだ
- ④ 鉢植えの植物たちが、祖母の不在を感じ取り、祖母を^{いちず}一途に求めている
- ⑤ 昔の出来事を思い出すにつけ、今の自分は祖母から捨てられたのだと感じる

問6 傍線番号(9)「私は水やりをしながら自分を納得させようとしていた」とあるが、それはどういうことか。その説明として、

最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① 祖母にまつわる少女時代の大切な記憶を思い返すことで、祖母に見捨てられたかのような悲しみばかりが強くなるのを紛らわせ、祖母を恨んだりしないよう自分に言い聞かせようとしていた
- ② 祖母との別れを前にして、耐え難いほどの悲しみを感じていたが、祖母が大切にしていた植物の世話をすることは祖母への恩返しだと考え、沈みがちな自分の気持ちを支えようとしていた
- ③ 祖母から愛情を受けられなくなるつらさを、これまで周囲のことを優先してきた祖母が、死を前にしてやっと自分のためだけに時間を使っているのだと思って受け入れようとしていた
- ④ 祖母を失うことに対するどうしようもないほど深い悲しみを、植物たちと感情を共有することで紛らわせ、近づいてくる祖母の旅立ちを満ち足りた気持ちで見守ろうとしていた
- ⑤ 死を前にして次第に身の回りのものへの関心を失い、自分のことでせいっぱいになってしまった祖母の様子を直視し、祖母との別れの時間を大切にしようと思った

問7 傍線番号(1)「考えてみる」とあるが、「私」はどういうことを考えてみるというのか。その内容の説明として、最も適切

なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 今の仕事は自分に向いているのかということ
- ② 水商売の世界から身を引くこと
- ③ 祖母の紹介で植物に関する仕事をする事
- ④ 祖母がシクラメンが嫌いということ
- ⑤ ホステスとバーテンダーの違いを理解してもらうこと

問8 傍線番号(2)「そんなこと言わないで」とあるが、「そんなこと」が指しているのは波線記号(ア)～(オ)のうちのどれか。最も

適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

16

- ① (ア) はじめは陰気な花だなあ、と思ったの
- ② (イ) 太い茎が虫みたいで、なんていやらしい花だろうって
- ③ (ウ) あの茎は水を吸い上げるためにあるのね
- ④ (エ) ああ、あんたたち生きてるんだねえ、って退屈しないのよ
- ⑤ (オ) あっちではシクラメンも育てられる自信がついたわ

問9 傍線番号(15)「ひとりのアロエ」とあるが、この表現が意味することや、もたらす効果の説明として、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

17

- ① 誇張した表現で祖母のアロエに対する思い入れの強さを表すとともに、祖母のアロエを救いたいという気持ちの高まりを強調している
- ② 省略した表現で祖母の意識の混濁や衰弱ぶりを表すとともに、まもなくこの言葉が祖母の遺言になるであろうことを暗示している
- ③ 擬人化した表現で植物に対する祖母の愛情の深さを表すとともに、植物が人のように仲間同士でつながっているという祖母の持論に結びついている
- ④ 独創的な比喩^{ひゆ}によって祖母の豊かで柔軟な感性を示唆するとともに、祖母の死を前にした「私」の恐怖心を和らげる伏線になっている
- ⑤ 象徴的な表現で祖母の孤独感を表すとともに、全ての命あるものに対する祖母の限りない愛情を読者に気づかせる働きをしている

問10

傍線番号(18)「私はつらくなって電気を消した」から傍線番号(19)「なんだか少しづつ楽になってきた」に至る「私」の心情の推移の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

18

- ① 祖母の人生は貧しく苦勞の多いものだったと思いこんで悲しい気持ちに浸っていたが、ささやかながら数々のものに彩られた充実した人生だったと思い直すことで救われる気がしてきた
- ② 暗闇くろやみの中で持ち主の帰りを待ち続ける祖母の持ち物を見ていると優しい祖母の人柄が思い出されて悲しかったが、自分も周囲に愛を与えながら生きていけばいいという気がしてきた
- ③ 祖母の身の回りのものたちを見つめると祖母との思い出が次々に浮かんできて悲しみに暮れていたが、祖母を失っても、植物たちが引き続き自分を慰めてくれるような気がしてきた
- ④ 祖母の持ち物に、改めて祖母の死が近いことへの悲しみを感じたが、生き生きした植物に、祖母の人生が悲しみや苦しみよりもむしろ幸せを感じさせるものだと教えられる気がしてきた
- ⑤ 祖母のうわごとを自分だけが聞いてしまったという重苦しい気持ちだが、物言わぬ植物たちを見ていると和らぎ、祖母の言葉を気味悪く思ってしまった後ろめたさも癒いされる気がしてきた

問11 傍線番号⑳「それにまた私ははげまされる思いがした」とあるが、ここでの「私」の心情の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

19

- ① 祖母の言葉を聞いてアロエを植え替えて、今まで気がつかなかったアロエの生命力にふれたことで、悲しみでいっぱいだった心が元気づけられたように思われた
- ② 祖母の依頼どおりにアロエを掘り出してみると、思いがけないほど成長していたことに気がつき、命を救ってもらったアロエが自分に感謝しているように思えた
- ③ 祖母の願いをかなえようと夜一人でアロエの移植に奮闘したことで、これからはもっといろいろな植物に愛情を注いでいくことができそうだと感じた
- ④ 半信半疑で聞いた祖母の言葉だったが、祖母が愛したアロエがたくましく成長し、祖母の分まで自分を見守ってくれそうだと頼もしい気がした
- ⑤ 病院の重苦しい雰囲気の中で祖母のうわごとを聞いたことで気が滅入^{めい}っていたが、アロエの植え替えに没頭^{めい}することですっきりした気持ちに切り替えられた

問12

本文の特徴の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

20

- ① 会話を中心に、回想の形で時間をさかのぼって「死」を淡々と描いている
- ② 同じ語を反復して用いることで、「私」のアロエへの感動を印象つけている
- ③ 倒置表現を多用することで、文章全体に独特のリズム感を生み出している
- ④ 慣用表現を効果的に用いることで、「私」の心情を丁寧に表現している
- ⑤ 植物をモチーフに、短文を重ねて、場面場面を感覚的に描き出している

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

群ぐんのはしっこにいる若いサルは、天敵を目にしたら、必ず「ききい」という甲高い警戒音を発する。⁽¹⁾その警戒音に接した他のサルは、実際に敵の姿にもお見知りしていないにもかかわらず、実際に察知したときと同じように、待避する。こうしたとき甲高い警戒音は、「敵が実際に接近している！」という文と同じ働きをしている。しかし、その働き方は同じではない。天敵を察知したら、それが原因となって甲高い警戒音が出る。甲高い警戒音に接したら、それが原因となって待避行動のスイッチがオンになる。これは、長い進化の力程(2)のなかでサルたちにインストールされた因果(3)的なプログラムによるのであって、音声を発する側・受け取る側での理解を必要としない。

4、人間が「敵が接近中！」と叫ぶときには、⁽⁵⁾そうではない。音列を発する側も・聞く側も、この音列が、発話者のいるところからは敵が見える」ということを意味する文だ、ということを理解している。すなわち話し手と聞き手の間では、もし、自分が相手のいるところにいたとしたら、……であろう」という「想像上での立場交換」(A・スミス)が働いている。

こうした想像上の立場交換は、言語を理解できるための根本条件である。というのも、動物の発する信号とは異なって、人間の言語とは、実際には見えないもの・見えるはずもないことについて、
6 現に見えるかのように考え・語ることを可能にする働きだから、である。丸山圭三郎の言葉を借りれば、言語は、まさしくそうした「非在の現前」という点で、動物の信号と異なっている。

のみならず、想像上の立場交換ができて、はじめて相手に映っているであろう自分の姿を想像できる。しかるに、相手に映っている自分の姿を想像できる、ということこそが、自己が成立するための本質的な条件に他ほかならない。それは他でもない。自己が成り立っている、ということは、そのつどの様々な思い・感情が、「自分の」思い・感情と言える仕方で統合されており、しかも他人による描写に接したときに「それは自分のことだ」と同定できる仕方で統合されている、ということだから、である。

このように、想像上の立場交換は、言語を理解できるための根本条件であるだけでなく、さらには自己が存続するための根本

条件である。したがって、自己が成立し存続しているかぎり、そして言語を理解できているかぎり、もし自分が相手の立場にいたとしたら、……と感ずるであろう」という想像上の立場交換ができないはずはない。

こうした想像上の立場交換の能力は、知的な理解にとどまるのではない。人が何かをするとき、私たちは、「もし私がこの人の立場だったら……」と想像上で立場を交換して考えることによって、その行為の理由を考へることができ、理由のテキヨを判断することができる。しかし、それだけではなく、その行為が上首尾に終わったときの喜びや、失敗したときの落タンに共感することもできる。あるいは、その行為によって恩恵を、あるいはヒ害をこうむった他人の気持ちにも共感することができる。ある人に助けってもらった人の感謝の表情は、見ている私たちにも、ほのぼのとした安堵を感じさせるし、逆に、大切なものを奪われた人の苦悶の表情は、見ている私たちをも重苦しい気持ちにさせる。自己が、言語という「非在の現前」を介して、対他的に統合されているかぎり、こうした共感能力をもっていない人はいない。

にもかかわらず、さまざまな考へ・感情・欲求が「自分の」思いとして統合されているとき、その統合のされ方は、人によって多様である。だからこそ、性格の違いや、感じ方の違いが現実存在する。したがって、他人への共感の仕方また、こうした多様性ゆえに人によって異なっており、共感への回路には、個人ごとに、それぞれに少しづつ異なつたフィルターがある。

そうであるかぎり、かりに、何の役割にも媒介されず、何から何まで対等に、しかも何ら話題の制限がないコミュニケーションがありえたとしても（もちろん実際にはありえないが）、こうした共感への回路の多様性ゆえに、必ずや、その時点では理解されずに浮遊する咬きが生じる。これは、どんなに共感能力の鋭敏な人同士の間であっても、避けられない。しかし、そのような浮遊する咬きは、すべて霧散してしまうだけなのではない。それらは、そっくり全てではないにせよ、しかし人類の精神史の中に、澱のように沈殿していく。

そうした沈殿は、まずは、素朴な民謡・子守歌あるいは民謡・昔話として、語り継がれてきた物語の底流を形成している。そうした物語にあつては、「善悪・正邪」のような普遍的な評価語は、目立った働きをしていないし、社会関係の安定性にかかわる機能要件を表す語彙も登場しない。物語の鍵となるのは、

15

「正直・不実」「親切・冷酷」といった、⁽¹⁶⁾明瞭な記述的意

味をもった濃密な評価語である。そして、こうした評価語が織りなすストーリーには、親切な行為による安堵の声だけではなく、むしろ不実な、あるいは冷酷な行為によって痛めつけられ、しかも声として聞き届けられなかった呻き⁽¹⁷⁾が沈殿している。

こうした民間伝承の物語は、特定の誰か^{だれ}についての記録ではないし、特定の聞き手を念頭において紡ぎ出されたものでもない。しかし、だからこそかえって、多くの異なった人々に共感をもって聞き取られ、語り継がれてきた。時代を遡れば遡るほど、こうした物語における濃密な評価語を理解し、それを使えるようになることによって、そうした評価語を用いなければ描けない行為のパターンを識別し認知する能力が習得され、伝達されてきた。

それは、ある面で、水子供養にも似ていよう。主として貧困ゆえに中絶された胎児は、眩きを発する立場にはいないし、中絶せざるをえなくなった妊婦の苦悶もまた、ほとんど無言のうちに噛み殺されてきた。しかし、そうした無言の苦悶は、水子供養という形で、微かにだが、しかし確実に、聞き届けられなかった呻きの沈殿として機能してきた。

もちろん、いかに人類の精神史の古層における、こうした物語や儀礼の重要性に⁽¹⁸⁾チュウ目するとしても、こうした物語や儀礼が、もっぱら濃密な評価語の例文集として機能してきたなどと考えることはできない。しかし、特定の誰の苦悶であるのかという人称性が濾過された、濃密な評価語の語り継ぎにおいて、その時点・その時点では聞き届けられることなく浮遊していた呻きが、微かにではあれ沈殿してきたし、その呻きへの共感をつうじて濃密な評価語が理解され習得されてきた。この事実を否定するのにも一面的にすぎよう。

(大庭健『善と悪—倫理学への招待』による)

問1 傍線番号(1)「その警戒音に接した他のサルは、実際に敵の姿にもおいても察知していないにもかかわらず、実際に察知したときと同じように、待避する」とあるが、なぜか。理由の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

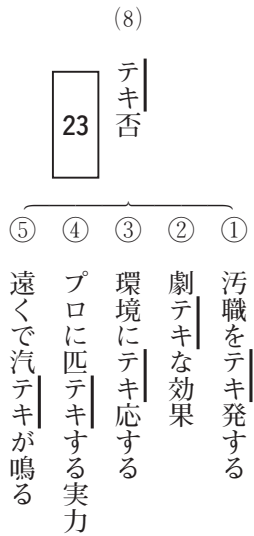
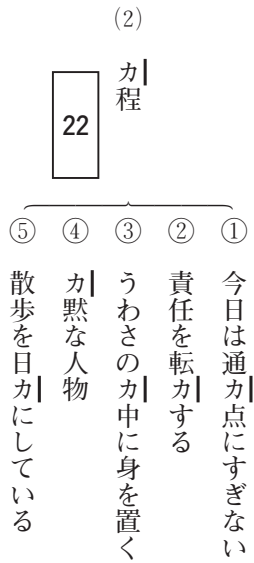
21

- ① サルは、天敵を察知したらそれが原因となって甲高い警戒音が出るように、遺伝的にプログラムされているから
- ② 仲間のサルの警戒音に接すると、その音の意味を考えるまでもなく、本能的に待避行動するようになっていくから
- ③ 音声を発するサルと受け取るサルとの間で、甲高い警戒音の意味するところが暗黙のうちに理解されているから
- ④ サルの群れの中では、人間と異なる言語理解の手段が、警戒音を発する側・聞く側で共有されているから
- ⑤ 相互理解の根本条件である想像上の立場交換が、サルが警戒音を発した場合においても成り立っているから

問2 傍線番号(2)・(8)・(9)・(10)・(18)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

22

26



(9)

落タン

24

- ① 工期をタン縮する
- ② 冷タンにあしらわれる
- ③ 密林をタン索する
- ④ 事の発タンをさぐる
- ⑤ 大タンなデザインを取り入れる

(10)

ヒ害

25

- ① 神仏の慈ヒ
- ② 食費とヒ服費を計算する
- ③ 体制がヒ弊する
- ④ 名画をヒ蔵する
- ⑤ 自分をヒ下する

(18)

チュウ目

26

- ① チュウ夜兼行で急ぐ
- ② エキスをチュウ出する
- ③ 胸チュウを打ち明ける
- ④ 商品をチュウ文する
- ⑤ 実力は伯チュウしている

問3

傍線番号(3)

「因果」

とあるが、この熟語の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

27

- ① 「因」は原因、「果」は結果を表す
- ② 「因」は因習、「果」は成果を表す
- ③ 「因」は因子、「果」は果報を表す
- ④ 「因」は因縁、「果」は果斷を表す
- ⑤ 「因」は要因、「果」は果敢を表す

問4 空欄番号

4

6

15

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ

一つずつ選びマークしなさい。

28

30

28 4

① したがって
② たとえば
③ しかも
④ むしろ
⑤ しかるに

29 6

① あたかも
② ところが
③ すなわち
④ むしろ
⑤ さらに

30 15

① あるいは
② むしろ
③ しかも
④ そもそも
⑤ たとえ

問5

傍線番号(5)「そうではない」とあるが、なぜそのように言うのか。その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

31

- ① 人間においては、サルとは異なり、音声を発する側でも聞く側でも音列の意味を理解することが必要だから
- ② 人間においては、サルとは異なり、言語を理解できる相手へのみ警戒すべき状況を伝えれば事足りるから
- ③ 知能の発達した人間は、サルとは異なり、敵を実際に目にしなくても情報を伝えることができるから
- ④ 人間が警戒すべき状況を伝えるのは、サルとは異なり、必ずしも敵を察知した場合だけではないから
- ⑤ 言語を巧みに操る人間は、サルとは異なり、話し手と聞き手の間で、同一の時間を共有できるから

問6 傍線番号(7)「こうした想像上の立場交換の能力は、知的な理解にとどまるのではない」とあるが、「知的な理解」のほか

にどのような能力があると筆者はのべているのか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

32

- ① 言語を理解する力
- ② 自己の姿を想像する力
- ③ 自己を統合する力
- ④ 他者に共感する力
- ⑤ コミュニケーションする力

問7 傍線番号(1)「自己が、言語という『非在の現前』を介して、対他的に統合されている」とあるが、それはどういうことか。

最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

33

- ① 相手に映っているであろう自分の姿を想像し、自己を向上させているということ
- ② 言語による想像的な理解によってはじめて、自分が成立し存続しているということ
- ③ 他人の目を通して、自分の体験を客観的に言葉で語ることができるようになるということ
- ④ 目の前にいない相手とも、言語を用いることで心を通わせることが可能になるということ
- ⑤ 他人の立場を想像して、その人の気持ちを言葉で表現できるようになるということ

問 8 傍線番号(12)・(13)・(14)・(16)・(17)の語句の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ

一つずつ選びマークしなさい。

34

38

(12) 媒介

34

- ① 行動をともにすること
- ② 対立すること
- ③ 役目を与えること
- ④ 仲立ちをすること
- ⑤ 影響を及ぼすこと

(13) 霧散

35

- ① 抵抗できなくなる
- ② 輪郭がぼやけること
- ③ 一時的に姿を隠すこと
- ④ 能力を失うこと
- ⑤ 跡形もなく消えること

(14) 普遍的な

36

- ① 他の何とも比べられない
- ② 時代にとらわれない
- ③ すべての対象にあてはまる
- ④ ある特定の場合に確かな
- ⑤ 人知を超越した

(16) 明瞭な

37

- ① はっきりしている
- ② うそがない
- ③ めざましい
- ④ 人を導く力のある
- ⑤ 混じりけがない

(17) 呻き

38

- ① 声にならない祈り
- ② 不実や冷酷への反抗の叫び
- ③ 苦心して紡ぎ出す表現
- ④ 言葉にならない苦しみの声
- ⑤ 他者への共感の表出

問9 サルの警戒音と人間の言語について説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

39

- ① サルの警戒音も人間の言語も、音声によって仲間に情報を知らせるという点では共通しているが、後者は聞き手が情報の意味を理解しその真偽を判断したうえで行動するという点で、前者とは異なっている
- ② サルの警戒音も人間の言語も、実際に敵を発見した場合に発せられるという点では共通しているが、後者は話し手と聞き手の間で有意義な情報が伝達されているという点で、前者とは異なっている
- ③ サルの警戒音も人間の言語も、敵が接近しているという意味を表している点では共通しているが、後者は聞き手が先天的な因果のプログラムの働きを理解しているという点で、前者とは異なっている
- ④ サルの警戒音も人間の言語も、聞き手に情報を伝えて行動を起こさせるという点では共通しているが、後者は聞き手が話し手の立場に立って情報を解釈することができるという点で、前者とは異なっている
- ⑤ サルの警戒音も人間の言語も、敵の接近を仲間に知らせるという点では共通しているが、後者は想像上の立場交換によって聞き手が話し手と全く同じ体験ができるという点で、前者とは異なっている

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

このむつるの兵衛(注1)の尉(注2)、懸け矢をはがすとて、たう(注3)の羽を求めけるが、足らざりければ、郎等どもに「もしや持ちたる」と尋ねければ、上六大夫といふ弓の上手聞きて、「この辺にたうやは見候(注4)ふ、見よ」と言ひければ、下人立ち出でて見て、「只今(注5)、河より北の田には見候ふ」と言ふを聞きて、則ち弓矢を取りて出でたるに、たう立ちて南へ飛びけるを、上六、矢をはげて、左右(注6)なくも射ず、「いづれかはこのがれたる」と言ひければ、「しりに飛ぶをこのがれたる」と言ふを聞きて、なほも急がず、はるかに遠くなりて、河の南の岸のうへ飛ぶほどになり(注7)にける時、よく引きてはなちたるに、あやまたず射落としてけり。むつる感興のあまり、不審をいたして問ひけるは、「など近かりつるをば射ざりつるぞ。はるかには遠くなしては射るぞ。心得ず」と尋ねければ、「その事候ふ。近かりつるを射落としたらば、河に落ちて、その羽ぬれ侍り(注8)なん。向かひの地につきて射落としたればこそ、かく羽は損ぜね」とぞ言ひける。心にまかせたるほど、誠にゆゆしかりける上手なり。

(『古今著聞集』による)

(注1) 兵衛の尉——兵衛府の三等官。

(注2) 懸け矢をはがす——「懸け矢」は矢の一種。「懸け矢をはぐ」は、ここでは、「竹に矢尻(注9)や羽などをつけて懸け矢を作る」こと。

(注3) たう——鶺鴒(注10)(朱鷺・桃花鳥)の異名。羽が鶺鴒色(薄桃色)で美しい鳥。

(注4) 矢をはげて——こここの「矢をはぐ」は、「矢をつがえる・矢を弓のつるに当てる」こと。

問1 傍線番号(1)「この辺にたうやは見候ふ、見よ」の解釈として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

40

- ① この辺りで鴿を見かけますか、見てこい
- ② この辺りで鴿に矢が刺さったのを見ました、連れてくるのだぞ
- ③ この辺りで鴿を見るでしょうか、いや、見ません、観察しましょう
- ④ この辺りで鴿を見なされたか、探しましょう
- ⑤ この辺りで鴿を見ましたよ、捕まえてこい

問2 傍線番号(2)「左右なくも射ず」の解釈として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

41

- ① 自信たっぷりに弓を構え
- ② 安易には射放たずに
- ③ 辺り構わず射落とし
- ④ だれもない時に射て
- ⑤ 準備がまだなので射ないで

問3 傍線番号(3)・(4)・(9)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマ

ークしなさい。

42

44

(3) いづれかは

42

- ① いつまでも
- ② いつの間にか
- ③ どれが
- ④ どれほど
- ⑤ どのように

(4) なほも

43

- ① あまり
- ② 結局
- ③ そのうえ
- ④ 依然として
- ⑤ それほど

(9) ゆゆしかりける

44

- ① 並外れた
- ② あきればてた
- ③ 不吉だった
- ④ 珍しかった
- ⑤ 気味が悪かった

問4 傍線番号(5)・(6)の「に」の文法的説明として、最も適切なものを、後の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしな

さい。

45

46

(5) はるかに遠くなりて

45

(6) 飛ぶほどになり^にける時

46

① 格助詞

② 完了の助動詞

③ 断定の助動詞

④ 動詞の活用語尾

⑤ 形容動詞の活用語尾

問5 傍線番号(7)「不審をいたして」とあるが、むつるの兵衛の尉が不可解に思ったことの内容として、最も適切なものを、次

の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

47

① 自分の家来たちが、上六大夫が見つけた「たう」を見つけれなかったこと

② 上六大夫の下人が、上六大夫のためにわざわざ「たう」を探しに行ったこと

③ 上六大夫の下人が、的確に「たう」の射止め方を上六大夫に伝えたこと

④ 上六大夫が、遠くを飛んでいる一番立派な「たう」を射落としたこと

⑤ 上六大夫が、見つけた「たう」をなかなか射落とそうとしなかったこと

問6 傍線番号(8)「かく羽は損ぜね」の解釈として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

48

- ① このように羽は傷のないのがよい
- ② それぞれの羽は濡れていない
- ③ この通り羽は無事に見つかった
- ④ この羽を傷めないようにせよ
- ⑤ この通り羽は濡れていない

問7 本文の内容に合致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

49

- ① むつるの兵衛の尉は懸け矢を作っていたが、「たう」の羽が足りないので、探していた
- ② 上六大夫は、「たう」が辺りにいないか、弓矢を作るのが上手な下人に探しに行かせた
- ③ 上六大夫の下人は、上六大夫の命令に従って、「たう」の居場所を見つけて帰って来た
- ④ 「たう」を見つけたという下人の報告を聞いた上六大夫は、すぐに弓矢を持って外に出た
- ⑤ 上六大夫が「たう」を射当てるのを見たむつるの兵衛の尉は、彼の弓の腕前に感心した